

## メシヤ様の御垂示 浄霊の仕方 ・ 研鑽資料

### ■医学の根本 85P

『太陽、月、地球の呼吸運動』とあり、『心臓は太陽の霊気を吸う』とありますので、関連した御教えを紹介します。

#### ① 呼吸運動

『元来肺臓は呼吸運動によって人間生体内に必要な量の空気を吸収する機能である。故に肺臓内に固結が出来たとすれば、それだけ空気の吸収量が減殺される訳である。従而呼吸を頻繁に行はなければ一定量の空気の吸収は出来ない事になる。例へば十の必要量を二の妨害物によって、八だけしか吸収出来ないとすれば、百の空気を吸収する為には十回呼吸すべき所を十二回半呼吸しなければならないといふ訳である。(肺結核 明日の医術一 昭和17年9月28日)』

#### ② えい - き 盈虧

- 1 月が満ちたり欠けたりすること 盈虚 (えいきよ)
- 2 物事が栄えたり衰えたりすること 栄枯

「えいか」とルビが付けてありますが「えいき」の誤りです。訂正してください。

#### ③ ぜん - どう 蠕動

- 1 ミミズなどの虫が身をくねらせてうごめきながら進むこと、また一般にうごめくこと
- 2 筋肉の収縮波が徐々に移行する型の運動、消化管壁が食物を送る運動などにみられる

『胃の蠕動』ですので消化管壁が食物を送る運動の意味です。

#### ④ 心臓は太陽の霊気を吸う

『観音力の療法は霊的療法ですが、ところが、いままでは心臓が非常に無視されている。貝原益軒の『養生訓』という本があり、ちょっと読んでみたんですが、漢方のほうからいうと胃を根本としてある。これはたいへんおもしろいと思う。そして、西洋医学は肺を一番重要視している。ですから、漢方は食物の養生を重んじ、菜葉、葱、紫蘇などの食物のいろんな薬のあるものを書いてある。西洋医学では空気を重要視し、病気は転地などを主張している。それは胃と肺へ対してはまことによく言っているが、心臓に対してはなにも言っていない。

これを新たに発見したのが観音力療法で、肺は月、心臓は火、胃が土という話をしましたが、胃は土ですから七で、肺は水で六、心臓は五で、やはり五六七になっている。ところが、心臓は五で観音様ということで、観音様はあってもいままで出ぬ。隠れていた。そのために五が隠されていた。実は五が主で、心臓は霊気を吸う。太陽の霊気を主として吸う。根本は太陽の霊気を吸うにある。このことも血が浄化される。きれいになればあらゆる病気は治る。それを知れば空気中に酸素があれば、それで血が浄化されると思っているが、心臓が絶えず霊気を吸収して血がきれいになる。これが本当の心臓の働きおよび霊気で、いままで未発見のものだったが、今度私が発見した。』

### ■頭 85P

#### ⑤ 頭の中心

『精神病一頭の中心へ狐霊が憑く。狐と人間が結合した場合、獣の方は溶けず人間の霊がとけて獣の霊の如くなり、畜生道へおちる。(特別講習会御講話 昭和十五年四月二日 論文集未定稿)』

45 ⑥高天原の所在地

46 8 6 P から 8 8 P にかけて『高天原』が 7 回も出てきます。そこで『高天原の所在地』という御教えが  
47 ございますので紹介いたします。

49 『大光明世界の真相 高天原の所在地 光明世界五号 昭和 1 1 年 1 月 2 5 日

50 世にタカマガハラ、と言ひますが、あれは間違つてをります。高天(カア)と書いてあるんで、天と言ふ  
51 字をマガと言ふ事はない。天(ア)の岩戸と言ふ様にアメとかアマとか読むのであります。何時の頃から  
52 か、マガと読んだのは邪神が、自分に都合のいいやうに、そう読ませたんだと思ふのであります。然ら  
53 ば高天原とは一体どこにあるかと申しますと、以前から、学者や宗教家達が研究してゐるんですが、今  
54 以て判らぬのであります。中には、希臘(ギリヤ)とか、又は印度のヒマラヤ山とか、又は日本の伊勢だと  
55 か、信州にあるとか言ふ人もあつて、高天原争ひは、今以て決定しないのであります。

56 所が実は、高天原は、何処にでもあるのであります、小にしては人間の体内即ち心の中のであります。  
57 頭と腹にあります。頭は天の高天原であり、腹は地の高天原であり、頭と腹は天地になつてゐるのであ  
58 ります。心の中にも高天原があつて、神仏を拜むといふ、此心が高天原で、信仰心のない人は、曇つて  
59 みて、未だ高天原が開けてゐないのであります。「高天原に神留ります。」と祝詞にもありますけれど、  
60 信仰のある人の心には、確かに神様がおいでになるのでありますから、先づ人間は、心に高天原を築か  
61 ねばならぬのであります。一家にしますと、神様や仏様が祭つてある所が高天原であります。仏の方で  
62 極楽浄土、神道の方で高天原であります。観音様は、神仏両方面のお働きになりますから、極楽浄土に  
63 も、高天原にも、御出でになる訳であります。神や仏を祭つてないのは、その家には未(マ)だ、高天原  
64 がない訳であります、又一地方とか一町村の高天原は何処かといひますと、それは産土神社であります。  
65 高天原に神集(ツ)ふなど言ひますがそれは土地の神々が、産土神の御社へ集まれる事で、人間でも、  
66 信仰のある人達が、その神社などへ集まる、特に昔はさういふ風に、何事も、神社(ヤシ)へ集まつては  
67 相談をしたものであります。今は、産土様といふても、ほんの名前丈で、一年に一度祭礼の時、お神輿  
68 (ミコ)の相談に集まる位のものであります。

69 処で、今日重要な会議を待合とか料理屋で、芸者相手にするから、碌な相談は出来っこない。不正な  
70 問題や、疑獄など醸(かも)すのは当たり前であります。政党なども、何か問題を討議するに、さういふ  
71 場所でやりますから、真に国家の為になる、正しい結論は得られないから、政党政治は世人から見放さ  
72 れるやうになるのであります。之も自業自得で仕様がありません。

73 昔はすべて、神社で会議をしたんであります。日本の内閣も、山王の日枝神社の側の山の上に造ると  
74 か、又は霞ヶ関に神殿を造り、祝詞を奏上し、斎戒沐浴して、御神霊の前で会議をする様にならなけれ  
75 ば巧くゆく道理が無いとおもいます。其様にすれば、防弾チョッキを着て、びくびくする必要もなく、  
76 流職大臣など出る訳はないのであります。日本式の政治は、さうならなければならぬのであります。  
77 之が高天原の政治で神政であります。又東京の高天原は宮城に当り日本の高天原は伊勢になり世界の高  
78 天原は、本当の意味から言へば日本であります。

79 基督教では、日曜毎に教会に行く事になつてをりますが、之等も、其地方地方の人が、一週に一回、  
80 高天原へ行って、神の光に浴するのであつて、寔に結構であります。さういふ具合に、高天原は到る処  
81 にあり、大中小と、それ相応にあるんであります。そんな判り切つた事が、未だ決まつてゐないのは、  
82 寧ろ不思議と思ふのであります。』

84 ⑦人間は宇宙の縮図

85 8 7 P に『人間は宇宙の縮図』とありますがちょっと聞いただけでは解りにくいので面白い記事が  
86 ありましたので紹介します。

88 脳細胞と宇宙は激似していた！驚くほど似ているマクロとミクロの比較画像

89 <http://karapaia.livedoor.biz/archives/52170614.html>

91 一方はわずか数ミクロンの範囲の画像。そして他方は数 10 億光年にも及ぶ範囲を写したものだ。前者

92 はネズミの脳内にある神経細胞であり、後者は宇宙のシミュレーション画像である。両者は全く別の自然現象であるにもかかわらず、驚くほどよく似ている。

94  
95 左側の脳内神経細胞の写真は米マサチューセッツ州ブランダイス大学の博士過程で、脳内において特  
96 定の神経細胞同士が接続するメカニズムを研究するマーク・ミラー氏によるもの。薄くスライスしたネ  
97 ズミの脳を染色し、神経細胞同士の接続を可視化してある。この画像では、左側にある3つの神経細胞  
98 (赤いものが2つと黄色いものが1つ) 同士が接続する様子を確認できる。

100 右側の宇宙の写真は、昨年、宇宙物理学者の国際チームがコンピューターシミュレーションによって、  
101 宇宙が成長し、進化する様子を再現したもの。シミュレーションによる本画像は、数千もの星々や銀河、  
102 暗黒物質がクモの巣状に大銀河団 (明るい黄色のもの) を取り囲んでいる現在の宇宙の姿である。

104 ちなみに、宇宙と脳だけではない。インターネットのネットワークもとても良く似ているようだ。

107 『**生氣説** 明日の医術二 昭和18年10月5日

108 医学の鬼オパラツェルズス出でて「自然界の現象を探求する唯一の道は哲学なり、故に医家にして哲  
109 学を知らざるものは、裏門より忍び入りて人を殺害する盗賊である」といひ、又「余は、広大なる自然  
110 の門に入れり。而して、余の道を照すものは、仄暗き壳菓舗の燈に非ずして、赫々たる自然界の光明な  
111 り」と。彼は又「万有は一の原素より成り、此原素は無形無色無声にして測るべからず、之を不可思議  
112 物といふ。此大不可思議物中には、凡ゆる力が包蔵され、一種の神秘力、即ち神の意志で、それによっ  
113 て万物は化生されるので、一切の根源は同一にして、ただその表はるる形状、様式に於て異なるのみ」と  
114 なし、彼はこの力をアルケウスと名付け、万物の生命の根源となし、人体は大宇宙の縮図にして小宇宙  
115 とみるべし—と言ったのである。又、彼は疾病の治療に於て、治病の神力をアルカナと名付け、何れか  
116 の薬物中に包有せられてゐると思ひ、これを発見するを医の急務なりとし、以て薬物精製の緒を拓き、  
117 又他方、自然を最良の医となし、大いに自然療法を鼓吹したのである。』

119 こ - すい 【鼓吹】

- 120 [名] (スル) 《鼓(つづみ)を打ち、笛を吹く意から》  
121 1 元気づけ、励ますこと。鼓舞。「士気を一する」  
122 2 意見や思想を盛んに唱えて、広く賛成を得ようとする事。「民主主義を一する」

124  
125  
126  
127  
128  
129  
130  
131

## 向上について

132  
133  
134  
135  
136  
137  
138  
139  
140  
141  
142  
143  
144  
145  
146  
147  
148  
149  
150  
151  
152  
153  
154  
155  
156  
157  
158  
159  
160  
161  
162  
163  
164  
165  
166  
167  
168  
169  
170  
171  
172  
173  
174  
175  
176  
177

昨日の『地上天国祭』では『神見の善』について榎木代表よりお取次いただきました。『神見の善』を拝読させていただくにあたり、

- > 実はメシヤ様は非常に急がれており、しかも向上を切望されています。まず私に対して
- > そうでありますので、上記の御教えを基に取り次ぎたいと考えています。

とのメールを頂いており、“どのように向上させていただいたら良いのだろうか”と思い、『向上』についての御教えをまとめてみましたので、紹介いたします。

『悪と守護霊 未発表 文明の創造 昭和 27 年  
人間は神と動物との中間性であって、向上すれば神のごとく、墮落すれば獣のごとくになるのは世間を見てもよく分るであろう。』

『箱根清談 光 17 号、昭和 24 年 7 月 9 日  
以上の意味の外、期待するところのものは日本人の情操を高める事であり、平和的に優秀民族である事を顕示させると共に、忌わしき侵略国の汚名を一日も早く払拭するにあるはもちろんであるが、今一つ企図するところは美による人心の教化である、なる程教育も必要であり、宗教も道徳もなくはない存在であるが、それのみでは人間を向上させる事の困難である事は、今日までの経験によってまことに明らかである、従って私は今日までほとんど試みられた事のない、美による人心教化を目的とした方針をもってするのである。』

『花による天国化運動 光 8 号、昭和 24 年 5 月 8 日  
本教の目標である地上天国建設というその地上天国とはいかなるものであろうか、言うまでもなく真善美が完全に行われる世界である、もちろん本教の生命である健康法も無肥料栽培もその具体化であり、また浄霊法は肉体はもとより精神的改造でもあるが、それとは別に人心を美によって向上さす事も緊要である。』

『はしがき 世界救世教早わかり 昭和 25 年 11 月 20 日  
そうして、いかなるものでもそうであるように、宗教といえどもその時代はもとより未来にわたってまでの、何らかの使命がなくてはならない。なるほど、真理そのものは未来永劫不変であるが、宗教自体の在り方としては、時代即応でなければならないのみか、むしろ時代の指導的役割をするのが本当である。

この意味において、既成文化も既成宗教も、時の推移に従って存在の意義が変転するのは元より、そこに進歩向上があるのである。何よりも今日のごとき智的文化人に対（むか）って、たとえ原始人を済度し得た宗教をもってしても、その目的を達成する事は到底出来得ないであろう。

本教は、元来神道に非ず仏教にも非ず、もちろんキリスト教でもないと共に、本教には神仏基のいずれもが包含されているばかりか、科学も本教の中に在って、しかも現代科学よりも数段進んでいる。このようにあらゆる文化はことごとく内在しているのが特異性である。そうして本教は一切の誤謬を是正し、よりよき文化たらしめ病貧争絶無の世界たる、地上天国を造らんとするのである。このような空前の大目標を掲げて、その可能を確信するというのであるから、まず世紀の驚異といってもよからう。しかしながらこのような救世の大事業は、到底人間力では出来るものではない。としたらここに偉大なる神霊が本教を加護されている事を、信じない訳にはいかないであろう。』



178 『病気の原因と罪穢 新日本医術書 昭和 11 年執筆

179 人間が一度現世を去って、死の関門を通過するには、肉体という衣を脱ぎ棄てるのである。人間の肉  
180 体は現界に属し、霊体は霊界に属しているものであるから、肉体が病気又は老齡の為に、頽廢（たいは  
181 い）して使用に耐えない以上、精霊はその不用化した物質である肉体を捨てて霊界に往くのである。そ  
182 うして霊界において再び現世に出生する準備をしなければならない事になっている。その準備とは浄霊  
183 作用である。しかるに大部分の人間は、生存中における罪の行為による穢が相当に多いので、霊界にお  
184 いての厳正公平なる審判に遇って、大方は地獄界に墮ちて行くのである。地獄界に墮ちた精霊は、罪に  
185 対する刑罰の苦難によって、僅かながらも一步一步向上してゆくのであるが、その際罪穢の浄化による、  
186 残渣（ざんさ）とも言うべき靈的汚素が、現世に生を営みつつあるその子孫に向って、絶えず流れ来つ  
187 つあるのである。それは祖先の综合体である子孫の個人が、罪穢を分担するという、一種の因果律的贖  
188 罪法である。これは万物構成における主神の神律である以上、いかんともし難いものであって、人間は  
189 これに服従する以外、何事も出来得ないのである。それはこの靈的汚素が、人間の脳脊髄へ向って絶え  
190 ず流動し来り、その汚素が人間の精霊に入るや、忽（たちま）ち物質化するものであって、その物質化が  
191 膿汁である。これがあらゆる病原となるのである。』

192

193 『病気の原因と其解消 病貧争絶無の世界を造る観音運動とは何？ 昭和 10 年 9 月 15 日

194 この様に精霊の曇りが浄められるという事は、遡（さかのぼ）れば、祖先の罪が赦されるという事  
195 なるから、地獄界に苦しんでいた祖霊達が向上して、天国へ救われる事になるので、その信仰の徳は予  
196 測出来ない程の洪大無辺なものである。』

197 ★廣大無辺(こうだいむへん)

198 【意味】限りなく大きく、広いさま。

199 【類義語】宏大無辺(こうだいむへん)。洪大無辺(こうだいむへん)

200

201 『非科学的医学 明日の医術 (再版) 第一編 昭和 18(1943)年 2 月 5 日

202 本来、自然科学とは、あるがままの自然の実体を掘り下げて、その法則を知る事である。そしてそ  
203 れによって文化の進歩向上に役立たせる事である。(中略) 人間なるものは一切とは別の存在で、他の  
204 一切の範疇 (はんちゆう) には入らない事である。即ち人間は現代科学では絶対解決出来得ないという  
205 事をまず知る事が人間を科学する法則の第一歩である。そして、人間以外の一切を科学する方法がこ  
206 とごとく機械によっている。科学と器械とは分離出来得ない事実である。従って、人間の生命をも機械  
207 によって解決しようと企図したのが西洋医学の根本理念であった。』

208

209 『本教の誕生 世界救世教早わかり 昭和 25 年 11 月 20 日発行

210 何よりも一度本教の信者となるや、何人といえども一宗の教祖くらいの救いの力を現し得る事である。  
211 一信者にして奇蹟を現すなどは、日常茶飯事といってもいい、実に素晴らしい現当利益である。そして  
212 本教の教えによれば人生の妙諦を会得し、真理に目醒め、日常生活は改善され、心中明朗となり、確固  
213 たる信念の下、未来にわたってまでも透見されるので、真の安心立命を得るのである。何よりも本教信  
214 者は時の経るに従い、人相がよくなる事である。というのは浄血者となる以上、健康は増進し、前途の  
215 不安は消え、品性も向上するので、世間の信用は高まり、人々から敬愛されるという有徳者となるから  
216 である。そして本教のモットーである地上天国を造るその基本条件としては、まず個人の向上であり、  
217 天国人たる資格を得る事である。このような人間が増えるとしたら、世界は個人の集団であるから、や  
218 がては地上天国出現となるのはもちろんである

219

220 御教え (一九五一年一月二十四日)

221 以上、概略記述したが、その奥義を知りたいとしたら、本教の信者となり深く研鑽される事である。そ  
222 れによって世界の将来も予想がつき、大安心を得ると共に、病貧争の悩みも解消し、来るべき地上天国  
223 に生き残って、其 (その) 住人たり得る資格者となるのである。』

224

225 『再び汚職の母体 栄光 251 号、昭和 29 年 3 月 10 日発行

226 もちろんこの根本は全然見当違いである事はすでに述べた通りであって、原因は檻ではない。檻を破  
227 ろうとする動物的本能にあるのである。従ってその本能を抜いてしまえば、檻を必要としない真の人間  
228 になるのは当然であり、この役目としての宗教である。以上を読んだら随分酷（ひど）い言い方と憤慨  
229 するかも知れないが、これが真理である以上何人も否定は出来ないであろう。つまり問題の核心は人間  
230 の魂にあるのであるから、この向上こそ真の解決法であり、これ以外にない事はもちろんである。ここ  
231 で今一つのたとえをかいてみるが、有神観念と無神観念と両方並べて、どちらの方が政界を腐敗させる  
232 かという事で、これ程明白な話はあるまい。ところが遺憾ながら日本の指導階級のほとんどは、無神族  
233 で占められている以上、汚職問題や社会悪が絶えないのは致し方ないのである。』

234

235 『綱の頭も信心とは大いなる誤りである 未発表、昭和 10 年頃？

236 そもそも人間が、信仰的信念を以て拝む場合、その本体即ち、的であるところのものは、飽くまでも  
237 崇高なる神格と、正しい第一義的の神霊でなくてはならないのである。それは、いかなる意味かと言う  
238 と、崇敬し、拝跪（はいき）すべき御神霊は、人間よりも、靈的段階の最上位の御神格程良いのである。  
239 何となれば、常に礼拝する御神格が高ければ高きだけ、人間の靈魂はより向上すべきものなのである。』

240

241 『我と執着 信仰雑話 昭和 23 年 9 月 5 日発行

242 そうして靈界における修行の最大目標は執着を除（と）る事で、執着の除れるに従い地位が向上する  
243 事になっている。それについてこういう事がある。靈界においては夫婦同棲する事は、普通はほとん  
244 ないのである。それは夫と妻との靈的地位が異（ちが）っているからで、夫婦同棲は天国か極楽人とな  
245 らなければ許されない。しかしながら、ある程度修行の出来た者は許されるが、それも一時の間である。  
246 その場合、その界の監督神に願って許されるのであるが、許されて夫婦相逢うや、懐かしさのあまり相  
247 擁するような事は決して許されない。いささかの邪念を起こすや、身体が硬直し、自由にならなくなる。  
248 そのくらい執着がいけないのである。故に靈界の修行によって執着心が除去されるに従って地位は向上  
249 し、向上されるに従って夫婦の邂逅も容易になるので、現界と如何に違うかが想像されるであろう。そ  
250 うしてさきに述べたごとく、執着の権化は蛇霊となるのであるから恐るべきである。人霊が蛇霊となる  
251 際は、足部から漸次上方へ向かって、相当の年月を経て蛇霊化するもので、私は以前首が人間で身体が  
252 蛇という患者を取り扱った事があるが、これは半蛇霊となったものである。

253 従って信仰を勧める上においても、執念深く説得する事は熱心のようにあるが、結果は良くない。  
254 これは信仰の押し売りとなり、神仏を冒瀆する事となるからである。すべて信仰を勧める場合、ちょっ  
255 と話して相手が乗気になるようなれば話を続けるもよいが、先方にその気のない場合は、話を続けるの  
256 を差し控え、機の到るを待つべきである。』

257

258 出会い(であい)/巡り合い(めぐりあい)/邂逅(かいこう)

259 関連語 奇遇(きぐう) 鉢合わせ(はちあわせ) [共通する意味] ★偶然に会うこと。

260 「巡り合い」は、多く、長い間会わなかった者同士が思いがけず会うこと。また、会う定めになってい  
261 た者同士が初めて会う場合にも用いられる。「邂逅」は、意味としては「巡り合い」に近いが、文章語で、  
262 あまり使わない。

263

264 『科学の力 信仰雑話 P.49、昭和 23 年 9 月 5 日発行

265 なる程、科学は唯物的には人類に対し、偉大なる貢献をなしつつあり、ますますその発展を要望して  
266 やまないが、前述のごとく、科学によって解決不可能の問題も相当あり、これこそ宗教が分担すべきも  
267 のではなからうか。ここにおいて私はおもう。この両者の一致的進歩こそ、真の意味における人類文化  
268 の向上であろう事を。』

269

270 『懐疑 栄光 96 号、昭和 26 年 3 月 21 日発行

271 懐疑とはちょっと聞くと、どうも面白くない響きがあるが、実をいうとこれほど尊いものはない、(中

272 略)しかし懷疑そのものだけでは何ら意味をなさないが、これによって誰でもこの謎を解こうとする意  
273 欲が起るであろう、それが尊いのである、何となればこれによって真理を掴み、智識は進み向上される  
274 からである、従って懷疑の起る人程進歩的で、将来性ある人と言わねばならない、(中略)

275 従って、人間は懷疑を起すくらいの人でなくては駄目だと共に、一步進んで懷疑を暴(あば)くとい  
276 う勇氣も必要である意味も判ったであろう。嗚呼(ああ)、懷疑なるかな、懷疑なるかなである。』

277  
278 『**神中心の世界** 未発表、年代不詳

279 何よりも事実が示している通り、戦争・病気・貧困・犯罪等々、不幸の原因はいささかの減少も見ら  
280 れないのである。そうして文明とは言うまでもなく、人類生活が改善され向上される世界であるべきで  
281 ある。ところが依然として前記の状態で何ら希望なき人生としたら、一日も早く精神的に一大革新の烽火  
282 (のろし)を挙げ、世界悪を焼尽すべき破天荒の一大力が出なければならぬ。それが見込みないとす  
283 れば、人類も輝かしい希望の夢は棄(す)てなければならぬ。そこで私が行わんとする革命は、今日  
284 までのような国家的民族的というような局限的のものではなく、世界的国際的大規模なものである。も  
285 ちろん、このような企画は人間業では到底出来るものではない、どうしても神の力でなくては駄目に決  
286 っている、といっても今までのような神の力でももちろん不可能である。何となれば歴史上すでに試験  
287 済であるからである。としたら、未(いま)だ嘗(かつ)て顕現され給わなかった最高最貴の万能の神  
288 であり、人類待望のキング・オブ・キングスであらねばならぬ。これによって善神の勝利となり、こ  
289 こにいよいよ**神中心の真新文明世界出現の段取となるのである。**かくのごとき偉大なる経緯こそ大奇蹟  
290 であって、本教が素晴らしい奇蹟を無限に現わしつつあるのにみても、本教の生まれた理由は分るであろ  
291 う。』

292  
293 『**神の恩恵に叛(そむ)く「禁欲」** 新宗教新聞 29号、昭和28年2月15日発行

294 従って地上天国とは、人類総体の生活が向上し、芸術その他の清い楽しみは大いに発達する世界をい  
295 うのである。また、真善美ということは、真とは偽りのないことであり、善とは正しい行であり、美と  
296 は美しいことであるから、禁欲生活においては善はあるが、真と美がないばかりか、反って文化の進歩  
297 を阻止することにもなるのではないかと思う。彼の印度の社会が精神生活のみに偏した結果、今日のご  
298 とき文化に後れ沈滞せる国運を来したことを考えるべきであろう。』

299  
300 『**歌集「山と水」に就て** 救世 61号、昭和25年5月6日発行

301 いつも言う通り、信仰の目的は魂を磨き、心を清める事であるが、その方法としては三つある、一は、  
302 難行苦行や災害による苦しみと、二は善徳を積む事と、三は高い芸術によって魂を向上させる事とで  
303 ある、以上の中、最も簡単で、捷徑(しょうけい)なのは高い芸術による感化である、しかも楽しみな  
304 がら知らず知らずに磨けるのだから、これ程結構な事はあるまい。

305 この意味において、山と水の和歌を暇ある毎によむ事である、それによって知らず識らず魂は向上す  
306 る、魂が向上すれば智慧証覚が磨かれるから頭脳が明晰となり、信仰も楽に徹底する、それというのも  
307 山と水の和歌ことごとくに真善美が盛り込まれているからである。

308 以上のごとく、私の目的は、言霊の力によっても信仰を、進めんとするのである。』

309  
310 捷徑(しょうけい)、目的地に早く行ける道。てっとり早い方法。早道。近道。

311  
312 『**御講話 (S27年7月6日)** 御教え集 12号

313 それからこういうこともある。家に帰ったり、他に行ったりした時、どうかすると箱根を思い出すの  
314 です。美術館は良かったな——と思い出すと、霊はこっちに来るのです。そうすると霊線は伝わりま  
315 ずから、そこでやっぱり浄められる——こういうことになる。だから信者さんなんかでも——信者さんは  
316 一番私を想うのですが、そうするとそれだけ浄まる。向上して行くのです。』

317  
318 『**御講話 (S27年10月6日)** 御教え集 15号



319      そこで人を助けるには、やっぱり話や説明やなにかが上手くできなければならないから、そのために  
 320 御神書を読む。また御神書によって、いろんな真理を知りますから魂も浄まります。それとともに人を  
 321 救う力もそれだけ出ます。そうして人を救い、喜ばせながら、自分も向上することになるのです。  
 322 大本教のお筆先に（中略）「良の金神は喜ばして返報返しを致すぞよ」そういうのがある。喜ばして返報  
 323 返しをするというのが非常におもしろいです。仇討ちといっても、忠臣蔵のように上野介の首を取ると  
 324 いうのではないのです。先方を喜ばすというのですから逆です。これが本当です。』

325  
 326 『御論文「幸運の秘訣」 【栄光 二四六号】

327      それで、百八十段という層になっているのですから、その層の居所によって運が良い悪いになるので  
 328 す。この層の良い所は良いことばかりが流れているのです。そここのところは神様は実にうまく作ってあ  
 329 ります。低い所は悪いことだらけなのです。悪いことが満ちているのです。上層になるとそれがだんだ  
 330 ん少なくなり、今度は良いことに変わってくるということになっているのです。そういうようで、人間  
 331 はどこかにいるのですから、良い方にいるようにすれば、そこに 行けば運が良くなるに決まっているの  
 332 ですから、なんでもないです。よく方角が悪いとか良い家が見つからないとか、いろいろなことがあり  
 333 ますが、それは霊界の居所が下ならどんなに良い家に住まおうと思っても、その世界には良い家がな  
 334 いのだから見つかるわけがないです。霊界の層が上に行っていれば、今度は、探さなくても見つかるよ  
 335 うになります。そこに住まわなければならないことになっているのです。それが運命です。ですから、  
 336 よく支部を作っても発展しないとか、どうも信者ができそうでできないということは、自分の魂の居所、  
 337 霊の居所が低いからです。それからまた、どうも自分は一生懸命に信仰しているが、親父は反対ばかり  
 338 している、あるいは倅（せがれ）がぜんぜん分からないということは、自分自身の霊的位置がまだ低い  
 339 からです。それで自分自身の霊的地位が高ければ、他の者もどうしてもその所に引き上げられるので  
 340 す。というのは、親父でも倅でも、みんな霊線が繋がってますから、親なら親の枝ですから、親がずつ  
 341 と上に上がると倅もそれについてゆくわけです。そうすると話をしてもよく分かるわけです。ところが  
 342 自分自身の地位が低いからして、いくら口を酸っぱくしようと、気をももうと、あえて効果がないわけ  
 343 です。

344      ですからそれには自分の霊的位置が向上することが必要です。それには、一人でも多くの人を  
 345 助けて、神様の御用をすることで、それによって自分の曇りが減って、そうすると霊が軽くなるから上  
 346 に行く。上に行くから、他の枝でも縁のある人でも、自然にそれについてくるわけです。だからすべて  
 347 思うように良くなるというわけですから、結局において自分にあるのです。それからまた、こんなにし  
 348 ても自分は苦しいことや災難がいろいろあるということは、それはまだ霊に重い点があるからして、神  
 349 様が軽くしてくださるために、軽くするには人を救うか、もし救い方が足りなければ自分が苦しむかで、  
 350 このどちらかで曇りが取れるのですから、その点さえ分かれば、世の中は決して難しくもなんでもな  
 351 いものです。結局、一切は浄化作用です。それで浄化作用とは一つの掃除ですから、ゴミがあると、どう  
 352 しても掃除されなければならないことになっているのです。稲の虫害というものも浄化作用です。硫安  
 353 をかけたり糞をかけたり、肥料を入れ たりするから、そういう物を浄化させなければならないので、そ  
 354 の浄化させる役目というのが小さい虫です。それで虫が生まれて毒を食うわけです。ズイ虫にしても、  
 355 ズイを食うということは、ズイに肥毒があるからして、それを掃除しなければならぬ。そうするとそ  
 356 の毒を食うが、毒が葉や茎に深くくっついているから、ついどうも葉や茎まで食わなければ追いつかな  
 357 いから食うのですが、それが虫害なのです。だから分かりきった話です。それで結核だとか、いろんな  
 358 病気の黴菌というものも、そこに薬毒があるから薬毒を掃除しなければならぬ。その掃除夫です。私  
 359 の古い本に書いてありますが、その掃除夫が自然発生して、それが食ってゆくわけです。結局あらゆる  
 360 ものが浄化作用だから、そういった汚れ、穢いものを溜めないように、入れないようにして、きれいに  
 361 するというようにすれば、必要がないから虫もわかないし、なにも悪いことはないわけです。だから浄  
 362 化作用というものは一切にあるのです。これを大乗的に言うと、もっとおもしろい浄化作用があります。  
 363 仮に、火事で焼けるのは無論そうですが、泥坊に盗られるとか詐欺師に引っ掛かって瞞されるとか、そ  
 364 れから最近の問題の保全経済会とか、いろんな貯蓄で損をする人がたくさんありますが、これはやっぱ  
 365 り浄化作用です。その人の持っている金の中に非常に汚い金があるのです。そういう金は どうしてもそ



366 の人が持つことができないので逃げてしまうわけです。こっちにそういった汚い金があるからして、誰  
 367 かがなにかの手段でその人から取るという、一つの浄化作用によってそうなるのです。だからああいつ  
 368 たものも、そういった一つの浄化機関になっているわけです。そうすると、そういうものも必要という  
 369 ことになりますが、これは必要不必要ということではなく、すべて汚いものはきれいにするというように、  
 370 神様がこの世界を造られたのです。だからそれを本当に分かるということは大乗的見方なのです。とこ  
 371 ろがこれはあんまり私が話をしないというのは、その話をすると泥坊も必要だということになります。  
 372 間違えますから、こういうことは腹の中で覚ることです。』

373  
 374 **資格について**

375 さきほどは、代表代行として『集団浄霊』をお取次させていただきました。  
 376 5月5日の祭典での代表挨拶において、『集団浄霊』の資格について厳しいご指導がありましたのでそも  
 377 そも代表代行の資格がないのではないか。『集団浄霊』はできないのではないか。との疑問を持つ人も  
 378 出てくると思います。『相互浄霊』の時間をとることも出来るかと思いますが、どのように対応させ  
 379 ていただければ良いでしょうか。との質問をさせていただきましたところ、「真摯な姿勢で月次祭に臨も  
 380 うとしていることを大変うれしく思います。これは、私の指示ですので、それで代表代行の資格を有す  
 381 ることになります。また、月次祭の席上で、そのありのままの心情を吐露したら皆さんと今後の姿勢を  
 382 共有できると思います。」と代表より御教導賜りました。

383  
 384 『御垂示録 14 号、昭和 27 年 10 月 15 日発行

385  
 386 「月並祭等で多数集まりました場合に、会長方は集団御浄霊の許しをいただけますでしょうか」

387  
 388 そうですね、大教師なら良いです。大教師に限って——。これからはもう良いです。』

389  
 390 『数字は神様だ』

391 この教導師第三位については・・・、私の母親も長年世界救世（きゅうせい）教および主之光教団に  
 392 おいて布教所長として御用を担っておりましたので集団浄霊が出来ていた訳ですが、「お光」のない、こ  
 393 のメシヤ教で集団浄霊の許可は許されませんので、息子からきつい話になりますけれども、「メシヤ教の  
 394 中では教導師第三位の資格を得るまでは集団浄霊は許可出来ない。」と言い渡してあります。“冷たい息  
 395 子だなあ”と、今までやってきたのにそれが許されないということほど冷たいことではないかと思いま  
 396 すけれども、メシヤ様という御存在は我々に布教に対しては一つは『結果が全てだ』ということと共に  
 397 『数字は神様だ』というふうに私達に御垂示されております。

398 ですから、この数字が現れない限り、どんなに良いことをしゃべっても、あるいは話し合いをしても、  
 399 数字が出て来ない限り、それは御神意に沿った内容ではないということです。いくら良い話をしててもそ  
 400 れは御神意に叶った内容ではないということです。

401  
 402  
 403 『御垂示録 8 号、昭和 27 年 4 月 25 日発行

404  
 405 それから、みんな罪の重荷をいっぱい背負ってますからね。病人を助けるのも結構だし、金の御用を  
 406 して、早く地上天国を造るというのも結構ですし、そこが ちょうど良いところですね。なかなか難しい  
 407 ですがその人なりに、自分はこのくらいが良い、こうすべきだ。と言う程度にやれば良いんです。それ  
 408 で、そういった信仰の関係や理屈は、御神書を読んで、教師は私の話を、質問したり聞いたりすること  
 409 それから普段、先輩の先生——資格者から聞いたり、質問したりして、だんだん磨いていくんです。

410 一番いけないのは、あの人はああやっちゃいけない。あの人は間違っている。と言うことがいけない  
 411 んですよ。人の良いとか悪いとか言うことは、人間には解らないんだからね。神様以外には解らないん  
 412 だからね。あの人は邪神だとか、邪神が憑いているとか言うことは、神様のなさるべきことを冒してい

413 るので、たいへんなことです。だから、人を見ないで自分を見るんです。自分は間違っているかいない  
414 かと見るんです。それが本当の誠です。』

415

416 『御垂示録 25 号、昭和 28 年 10 月 15 日発行

417

418 「そこで神様に任せることと、自分の奉仕する時所位において努力するという区別が分かりませんが」

419

420 だから神様にお任せして努力するのは、あなたは切り離すからいけないのです。“人事を尽くして天  
421 命を待つ”で、神様にお任せして努力するのですから、それでよいのです。

422 今の質問はたいへんよい質問です。そういうように思っている人があるかもしれないから、そういう  
423 ことは大いに質問して、本当に心から分かるようにして働いたほうがよいです。』

424

425

426 御神書を読んで魂を磨き、それぞれの立場で神様にお任せ  
427 して努力をしていこうではありませんか。

428